

文化の交差点

bunka to bunka no kousaten

2019年秋麗号

著作権との関係で
画像は表示できま
せん

contents

サークル見聞録

劇団木霊 p1

繊維研究会 p2

文化の案内板

児童文化研究会 マンドリン楽部 p3

国際問題研究会 戦争・貧困・環境を考える会 p4

露と枕 p5

Essay p6

「文化の交差点」2019年秋麗号

発行日:10月24日

発行者:「文化の交差点」編集委員会

連絡先:090-2331-4456

waseda-bunren@hotmail.co.jp

サークル 見聞録

劇団木霊 2019年新人公演『鯖々』

(9月14日～17日 @大隈講堂裏劇団木霊アトリエ)



「うみにいく」と書き置きし「鯖をとる」と言い残して失踪したヒメカ。ヒメカを追って、級友のモモカとミホが先生と連れ立って鯖の産地・千葉県銚子を目指す——めまぐるしく展開されるストーリーの中で、ヒメカの家政婦ロボット・マリアが、かつては博士のもとで製作された軍事用ロボットであったことが明らかにされる。銚子で合流したヒメカと級友たちに、同じく博士が製作した殺戮ロボット・サッポロの攻撃が襲いかかる。マリアは命を賭してヒメカらを守って倒れる——。

先日開催された劇団木霊 2019年新人公演『鯖々』にいってきました。圧巻の公演でした。12人の役者さんはみな溜息がでるほどすばらしい演技でしたが、特に印象に残ったのは、ロボットの〈情感〉のうつろいが手に取るように伝わってきたマリア、舞台中を所狭しと一人五役をこなした先生の躍動感でした。脚本もよかったです。日常生活をコメディーもまじえて描きながら、しだいに核戦争などの現代社会の暗部を直視するように観客を誘っていく——観る者の想像力を四方八方にかきたててやまない作品だと思いました。大衆魚サバがなぜタイトルに？ 踊り字の鯖々とは？ ポスターに描かれた死んだような鯖の群れは、〈爆弾〉を象徴するとのことでした。

劇団木霊 67期の役者さんとスタッフさんは、この春から連日連夜にわたって、先輩の指導のもとに本当にハードな稽古を積み重ねてきたことを団員さんから教えてもらいました。聞いて納得、アトリエにあふれる団員さんの熱意や気概をヒシヒシと感ずることができた公演でした。

(文学部 鮎)

繊維研究会 「Freshman's show」を観て

(10月20日 @学生会館B201)



前々から行ってみたかった繊維研究会のファッションショーを、今回はじめて見に行った。今回は「1年生ショー」ということだったが、今年4月に入部した新入会員のみなさんがたった半年で実現したとは思えないほどの完成度の高さだった。ファッションについてはまったくの素人である私には、専門的なことはわからないのだが、観客を中心に集め、その周りをモデルさんたちが歩く、という舞台、四方からライトアップする効果的な照明、そのすべてが私にとって新鮮だった。そして何よりも、既成の価値観にとらわれず、自由な発想で製作された衣装たち…。その「非日常」に、とても心が揺さぶられるものがあった。そして軽妙な音楽の合間に時おり奏でるノイズ音。なんだろう、この「ざわざわ感」は…。

最後に主催者の方が、私たちの回りは2次元と3次元の境界が曖昧になっているのではないか、それを表現してみたかった、というコンセプトを述べられていた。私は、なるほど、と合点がいった。雑誌やweb上の写真で見るとはまったく違う、目の前にある3次元の世界。その場の空気感や音楽…。そこでしか感じられないものが確実にある。そしてそこで示されるファッションも、常識を疑え、と観るものに訴えかけられているような気がした。私が所属する研究系サークルとはジャンルが違うのだが、その批評精神や、みんなでコンセプトを議論し・それを服飾・演出で見事に表現してみせた今回のショーにとっても多くのことを学ばせていただいた。

今回観覧して、繊維研究会のスピリットは確実に受け継がれ・発展させられている、と思いました。とても有意義な時間をありがとうございました。冬の合同ショーも楽しみにしています。(N)

人形劇



早稲田祭イベント 秋のお楽しみ人形劇
冬の約束

日時：11月3日（日）

第1部 12:00開場 12:15開演

第2部 14:00開場 14:15開演

場所：11号館504教室

入場方法：受付はございませんので、
ご自由にお入りください。

早大唯一の人形劇サークルがお届けする、人形劇『冬の約束』。オリジナル脚本と手作り人形が特徴です！

Twitter@wasedaJIKENで詳細をご覧ください。過去に使用した人形や脚本も展示しております。



マンドリン楽部



早稲田祭
マンドリンミニコンサート2019

日時：11月3日（日）

開場15:00 開演15:30

場所：15号館201教室



♪曲目♪
紺碧の空
イスパニアカーニ
トロメドレー
A whole new world
Friend like me
ビートルズメドレー など

国際問題研究会

研究発表



早稲田祭展示企画

「米中が激突する現代世界をよみとく」

日時：11月2日（土）10:00～17:00

会場：10号館201教室

アメリカと中国が激突する現代世界。民衆の視点から、排外主義とナショナリズムを超えていく理論研究の成果を発表します。ここに来れば世界の“いま”が見えます。入場無料・入退場自由。お気軽にどうぞ！



電話:090-9320-2457 メール:w-kokusai21@ezweb.ne.jp

戦争・貧困・環境を考える会

研究発表



早稲田祭展示企画

「戦争する国づくり」を問う

日時：11月3日（日）

11:00～17:00

会場：10号館201教室

憲法改正や沖縄の基地問題について展示を行ないます。ぜひ見に来てください！



昨年の早稲田祭展示企画の会場の様子。来場者からの質問も多く、会場のいたるところで対話がりひろげられました。

電話:080-1318-4278

メール:senhinkan@docomo.ne.jp

文化の案内板

演劇



露と枕 Vol.3 煙霞の癖



日時：11月13～19日

会場：大隈講堂裏劇研アトリエ

	11/13 水	11/14 木	11/15 金	11/16 土	11/17 日	11/18 月	11/19 火
14:30				●	●		
19:00	★	★	●	●	●	●	●

★＝「早割」対象回

※開演45分前より受付開始。30分前開場。

※入場はご予約の方優先でご案内。

ご予約 ticket.corich.jp/apply/103023/

＝料金＝

【一般】2000円

【学生】1500円

【高校生以下】500円

※予約・当日券は同一料金

※お支払いは当日精算のみ

◇各種割引

早割…13日・14日は500円引

リピーター割…半券裏のQRコードから予約で500円引

鎌倉時代中後期に自伝形式で綴られた前代未聞の暴露本、「とはずがたり」をモチーフに、舞台を戦後日本に置き換えて描く、とある女の一年間。

娯楽のない田舎で、煙草とうわさ話を吹かすつまらない人々と、彼女はどうか共存し、夢を見たのか。

700年の時を経て、作者・二条へ捧ぐ、露と枕の夢物語。

【作・演出】井上瑠菜

【出演】澤あやみ 小林桃香 月館森 中野華子 奥泉 村上愛梨 北原葵 絹川鈴 (以上、露と枕)
宮部大駿 佐野芹奈 川合凜 田中遼太郎 ひな香

「文化の交差点」

編集委員会より

「文化の交差点」は、ジャンルの垣根を超えてサークルどうしの交流を活発にし、早稲田サークル文化をより豊かにすることを目指して発刊しているサークル交流誌です。サークルの公演・演奏会・発表会の情報をはじめ、文芸作品やエッセイの投稿をお待ちしています。

お問い合わせは
090-2331-4456
waseda-bunren@hotmail.co.jp
まで

「論理国語」と「文学国語」？

高校で学ぶ「現代文」の科目は、2022年度から「論理国語」と「文学国語」に分かれるらしい。

「論理国語」と「文学国語」？ 「論理」と「文学」をなぜ分ける必要があるのか？ 「文学」には「論理」がないとでもいうのだろうか？

文部科学省は、「論理国語」では「論理的、批判的に考える力」を身に付けるために、解説文や記録、報告書など「実用的」な文章を扱うとっている。気になるのは、ここで言われている「論理」の意味である。文科省の説明では、「実用的」な文章に書かれた内容を、その文章の平面で“正しく”理解することが「論理的に考える」ということであるといっているように思える。

「論理」とはそんなに簡単なものなのだろうか？ 複雑な現実や人間の内に貫かれている「論理」をつかむことは、説明書を読むようにはいかない。合理的にして非合理的な現実や人間の姿を、数多の言葉を尽くして表現してきたのが、世に言う「文学」といえる。「文学」から切り離された「論理」なるものは、合理的に割り切れない人間の感情や現実の矛盾を削り落とした、内容空疎・無味乾燥な抜け殻のようなものではないか。

本学OGで歌人の依万智さんは、この件に関して「言葉や表現の豊かさにあえて触れさせない意地悪を、なぜするのだろうか」と述べている。まったく同感である。よもや文科省が、「言葉や表現の豊かさにあえて触れさせない」ことで、言葉の裏に込められたものを読みとろうとせず、書かれたこと・言われたことを素直に理解する「論理的」な国民を育成しようと考えてはいないことを願う。(鈴虫)

著作権との関係で画像は表示できません

国語教育の将来を危惧する声が、研究者や文学者からあがっている